

故石川匡さんの50回忌集い

挨拶

あの日、石川さんの遭難のあった1966年3月24日の翌日。神戸大学の入学手続きを終えてこれから登山を本格的に始めようと山岳部の所在を探していました。そこへ届いた事故のニュースに大きな衝撃を受けました。入部を躊躇したのは当然のこと、また母子家庭でしたので母親に心配の種を増やすことにも心を痛めました。ずいぶん悩んでいると家族から大学に入ったことがうれしくないのか、と詰られたりもしました。

入学式が終わり、意を決し、山岳部の部室を訪ねたところ、遭難後の会合で皆さん暗い顔で狭い部室に詰めておられました。こんな時期に入部するやつは居ないだろうと思っていたら同期の小林廣夫も入部希望で部室にやってきました。それで決心が固まり今日までの長い山登り人生を続けてきております。

あってはならない遭難を間近に感じ、山の危険性とそのリスク回避策について徹底的に教え込んで頂いたことは実に有難いことだったと思っています。亡き石川さんには心より感謝しなければなりません。

しかし、山岳部・山岳会ではその後、カラコルムで右田君が、御嶽で天野君が遭難死いたしました。さらに2011年12月1日に、一緒に未踏峰シェルピカンリの頂上に登った緒方君が富士山で滑落死したことは痛恨の極みであります。

ACKUの輝かしい未踏峰登山6座成功の陰に遭難の歴史があることは片時も忘れずにおりますが、なぜ遭難が防げないのか、安全登山の技術や心掛けが足りないのか、反省すべきことが多くあることも心しております。また、自然を相手の登山活動に絶対安全はありません。いくら人智を尽くしても「まさか」は起きます。これからも継続して安全登山を目指して研鑽していくことを石川さんの御霊に誓いたいと存じます。

本年は山岳部創部100周年で記念事業として氷ノ山千本杉ヒュッテ改修、チベットの未踏峰 BadaRi6516m 登山、百年史の発行ならびに祝賀会などが実施されます。特にチベット登山では「安全は何物にも代えがたい価値である」を肝に銘じて無事に成功させることを重ねて宣誓したいと存じます。

2015年5月12日 新穂高にて

神戸大学山岳会
会長 井上達男